こどもボランティアスクール ～親子で被災地交流～

昨年度から始まった「こどもボランティアスクール」が今年はパワーアップをし、東日本大震災で被災した岩手県大船渡市や陸前高田市を訪問して“絆”を深めてきました。

【本活動実施の経緯】

阪神大震災以降､｢ボランティア活動｣が急速に普及し､近年では災害復興はもちろん活動内容も多種多様になっています。そんな中、ボランティア活動は特別な活動ではなく、老若男女誰にでもできる身近な活動であることを広く知ってもらい、特に早い時期（小学生、中学生）からボランティア活動に携わることによって、

○誰かがよろこぶと**私もうれしい**、

○地域が良くなると**自分も住みやすくなる**、

○何かをするために、調べたり準備したり、話し合ったり・・・**自分の知識や技術が増える**

など、**ボランティア活動は誰かのためだけではなく、自分のためにもなる活動である**ことを感じてもらえればと思い企画したのが「こどもボランティアスクール」です。

さらに、今年は東日本大震災直後から方法を変えながらも大船渡市をずっと支援してきたこともあり、８月２３日（金）～８月２５日（日）までの２泊３日で、市内の小学５、６年生とその保護者を対象に被災地の状況把握と被災した児童との交流・絆づくりをするために実施しました。

【活動内容】

1日目

７時１５分　県営名古屋空港から空路で岩手県花巻市に降り立ち、その後はバスで大船渡市を目指しました。午後からは陸前高田市を訪問しボランティアガイドさんと一緒に奇跡の一本松や旧市役所、慰霊碑などを見学しました。夕方には大船渡市内の「津波伝承館」を訪れ､ＤＶＤ映像を見ながら語り部さんの話しを聞きました。被災地の現況や地元の方の当時の様子をうかがいました。

2日目

大船渡市放課後児童クラブ「にこにこ浜っ子クラブ※」を訪問し被災した児童を励ますとともに“絆”を深めました。折り紙やサッカー、じゃんけん大会を一緒に楽しんだり、昼食は保護者の方にも手伝っていただき、名古屋名物の「あんかけスパゲッティ」を作って食べました。最後には交流のお礼に手話コーラスを披露しました。

※2006 年から大船渡市立赤崎小学校の敷地内で運営されていたが東日本大震災による津波で同小学校校舎とともに全壊。震災後 4 月から被災を免れた施設を間借りして再開したが、保護者からの強い要望を受けた大船渡市が民間支援団体に協力を依頼し現在の場所に新施設を建設しました。

3日目

陸前高田市を経由して、内陸部へ移動。世界遺産の平泉地区を訪問。毛越寺や中尊寺を見学しました。毛越寺では２４時間テレビ「愛は地球を救う」の街頭募金を急きょお手伝いすることになり観光で訪れた人たちへ大きな声で募金を呼びかけました。

【活動を終えて…（参加者からの声）】

・自分はいつも周りの人に助けられてばかりいるけど、少しでも人の役に立ちたいと思い参加した。実際、被災地へ行って人を喜ばせたり、励ますことができて本当に嬉しかったし、自分のためになったと思う。（６年女子）
・ボランティアガイドさんのお話しで、一人の男の子が逃げ遅れ、ボーっと立ちつくし津波に流されそうになっていた時、近くにいた女性が男の子の背中を押して、高台へ逃げるよう男の子に叫んだ。そのおかげで男の子は助かったけど、背中を押してくれた女性は津波に流されてしまい亡くなってしまったという話しが一番印象に残った。自分の命を犠牲にしてまでも男の子を助けたその女性はすごく素敵だと思った。そしてその男の子にはその女性の分まで頑張って生きてもらいたいです。（６年女子、６年男子）
・語り部さんのお話しで、被災直後に顔見知りの男性に「何か食べ物を持っている？」と尋ねられ、ほんの少しならありますと答えると、男性は自分の持っていたパンを「半分あなたにあげます」と言ってそのまま立ち去ったという。こんな状況でも他人のことを思いやれるという“絆”の素晴らしさを感じた。（６年男子）
・家族を亡くした子がその人の分まで生きようとしていると思うと、自分も頑張らなくてはと思った。（５年女子）
・被災した自分たちがすごく悲しい思いをしたのに「これからの子孫に伝えていこう」と熱く語ってくれたボランティアガイドさん達はかっこいいなと思い感謝しています。（５年女子）
・参加して感じたことを自分の言葉で友達に伝えることが今の自分にできる一つの役目だと思う。（６年男子）
・何度も新聞やテレビで見ていた光景も、実際目の前にすると全く印象が違い、言葉を失うことばかりでした。一面が草地になった被災地を見て、陸前高田はこれでも復興が進んでいる方だと聞き驚いた。（保護者）
・私は災害とは無縁でした。そんな中、子どもと地震や津波災害の大変さを話すのですが、いまいち親である私自身想像の中での話しで平和に暮らせる有難さを当たり前のように感じていることに気が付きました。今回参加して子どもだけでなく私自身も今後いろいろな面で考え行動できるようになればと願っています。（保護者）
・復興には時間がかかることがよく分かり、長く支援を続けていくことが大切であると思いました。（保護者）

まずは、２泊３日の日程で「こどもボランティアスクール～親子で被災地交流～」に参加いただき誠にありがとうございました。

２泊３日という長いようで短い３日間だったのではと思いますが、この間に感じた思いや経験、被災地の方の心に残るような活動ができたことは、これからの長い人生を生きる上で必ず大きな力となると思います。

２年半が経ち、徐々に被災地も復興が始まっております。しかし２年半経っても未だ見通しが立たないところもあります。これからは参加いただいた皆様、さらには読者の一人ひとりの思いが復興を後押ししていきます。できることからで構いません。背伸びをせず長く続けられる活動をしていきましょう。

今後とも被災地支援のためにご協力をお願いいたします。（一宮市社会福祉協議会職員）